

全校集会 学校長の話（2026 年 10 月 6 日）

- おはようございます。きょうも、たくさんの表彰がありました。男子・女子テニスの団体戦、中教研の理科の研究、そして英語の暗唱大会。スポーツに研究に英語と、いろいろな場所で北稜中の生徒が活躍してくれています。おめでとうございます。学校の外で頑張っている人も、たくさんいると思います。習い事やクラブチームなどですばらしい成績を収めたときは、ぜひ学校にも教えてください。全校のみんなの前で紹介したいと思います。
- さて、10 月に入って、朝晩はだいぶ涼しくなりました。家でもエアコンをつけなくてよくなって、ひと安心しています。家計的にも……ほんまに助かります。
- この季節になると、思い出すことがあります。約 30 年前、ちょうど今ぐらいの時期、友達と天王寺にいたときのことです。野宿の準備をしている方がいました。友達がその方に、「ええ季節になったね」と声をかけたんです。すると、その方はこう答えました。
- 「いや、今はええけど、もうすぐ冬になりまっしゃろ。冬になったら死ぬ仲間がいますねん。ぼくもいつか凍死するのかと思うと、この涼しさが怖いんですわ」
- 僕はその場で、はっとしました。同じ大阪に、冬の寒さで命を落とす人がいる。僕は、そのことを知らなかったんです。大阪市西成区には、釜ヶ崎と呼ばれる地域があります。1970 年、大阪万博が終わった年の暮れ、仕事なくなり、宿にも泊まれず、路上で年を越す人たちがいました。そこで、仲間や有志の人たちが、炊き出しや、年を越すための場所づくりを始めました。「越冬闘争」の始まりです。寒さから命を守り、仕事や住まいを求めて声を上げる活動は、50 年以上たった今も続いています。多くの人が家でお正月を迎える一方で、同じ大阪で、冬の寒さから命を守ろうとしている人たちがいます。
- 友達は、悪気があって「ええ季節になったね」と言ったわけではありません。でも、同じ涼しい風でも、僕たちにとっては「涼しくて心地いい風」で、その方にとっては「怖い風」だったんです。
- みんなの毎日にも、似たことがあると思います。「連休、どこ行ったん？」と何気なく聞いても、答えにくい事情がある人がいるかもしれません。「背が高くてええなあ」とほめたつもりでも、本人はそれを気にしているかもしれません。
5 月に話した、マイクロアグレッションのことも思い出してください。何気ない言葉の中に、自分では気づいていない思い込みが表れることがあります。
- だからといって、声をかけるのをやめてほしいわけではありません。声をかけることは大事です。ただ、相手が自分と同じように感じているとは限らない。そのことを、頭の片隅に置いてほしいんです。そして、思ってもみなかった返事が返ってきたら、「そうなんや」と、まずはその人の言葉を受け止めてください。
- 僕は今も、この季節になると、あの日、その方が話してくれた言葉を思い出します。自分を大切にすること。そして、隣にいる人を大切にすること。相手の気持ちを想像し、相手の言葉に耳を傾けられる人であってください。以上です。